

修了式での修了スピーチ

モンゴル研修生 カタンバートル・ヒシゲ



3月9日東京にある三菱東京U F J銀行本館にて、三菱U F Jフィナンシャル・グループ（以下、M U F G）の支援を得て実施している、環境保全型農業の指導者育成コースの研修修了式が行われました。 同社には2008年より支援していただき、今年度は2010年4月～11年3月の期間、7ヵ国9名の研修生が母国の農業発展を担う人材となるべく研修に励みました。今回は、研修生を代表して行った、モンゴル出身の研修生カタンバートル・ヒシゲさんの挨拶をご紹介します。

皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、中野総裁、M U F Gの皆さま、各国大使の皆さま、私たちの研修修了式に参加して頂き、本当にありがとうございます。特に、M U F Gの皆さま、このような素晴らしい修了式の場を設けて下さり、有り難うございました。研修生を代表して、お礼申し上げます。

私は、モンゴルのヒシゲと申します。私は日本に来る前、首都のウランバートルから400km離れたエルデネットという銅の鉱山会社が行っている保養キャンプで野菜などを栽培していました。

モンゴルの冬は大変寒いので、ハウス栽培でトマトやキュウリ、花を育てていました。夏は畑でジャガイモ、キャベツ、にんじん、ビートなどを作っていました。私は日本での1年間の研修で、本当にたくさんの事を勉強しました。野菜の作り方や堆肥・肥料の作り方と使い方などを教えてもらいました。教室での講義や畑での作業を通して、さまざまな経験をしました。研修している中で、モンゴルの気候にはイチゴの栽培が合うと思い、イチゴについてたくさん勉強しました。畑での勉強だけではなく、いろいろな場所へ行って見学したこともとても良い経験になりました。特に研修中、私が感動したのは、海の水を飲み水に変える技術を見学した時でした。いろいろな事を勉強したり、見学したりする事はとても感動するし、モンゴルでも同じことができれば素晴らしいと思いました。そして、私も学んだことを実際にやってみたいという気持ちが

強くなりました。このことは、私が研修に励むエネルギーになりました。

私は、国に帰ってから、研修で勉強したことを実践し、上手にできるようになったら、国の人たちに教えていきたいです。それは、農業の技術だけではなく、日本人の働き方・仕事への思い・予定を作ってから仕事に入ること・時間を守ること・きれいに掃除をする事などです。私は、これらをみんなに話して伝えたいと思います。そして、日本人と同じように仕事ができるようになりたいです。農業でやりたいことは、日本の技術を使ってイチゴを作る事です。私は必ず作ります。この気持ちはとても強いものです。モンゴルの白樺の森では、野生のイチゴがたくさんとれます。小さいですが、とてもおいしいです。ただ、とれる期間が短く、残念です。私は日本のイチゴをモンゴルでハウス栽培をしたいです。モンゴルでイチゴを栽培している人はまだなく、イチゴはとても高いです。ウランバートルでは1パック1500円くらいします。そのため、いろいろな人にイチゴの栽培技術を教えたいと思っています。



私はM U F Gの皆さんのおかげで日本に来て研修を受けることができました。日本の農業は素晴らしいです。日本に来る前、どうしたらたくさんの収穫ができるのか、どうしたら厳しい自然の条件に勝てるのかなど、いろいろな質問がありました。その質問は日本で勉強した事で、少し答えを探すことができました。また、いろいろな国の研修生と友だちになって、他の国の農業のことも良くわかりました。私は、センターの先生方や研修生と過ごした1年間は一生忘れられない素晴らしい思い出になりました。その思い出を国に帰ってからも研修の成果と一緒にいつまでも胸に持っていたいです。

最後に一つだけ言いたい事があります。今、世界の人たちがモンゴルの地下資源に注目しています。しかし、地下資源はいつか無くなります。その時必要なものはなんでしょうか。金や銅、ウランが無くても困りませんが、食べるもの、野菜がないと大変困ります。私はモンゴルで人間が食べる野菜を作ります。これはとても大切です。みんなが喜びます。人々が喜ぶ仕事は素晴らしいです。私はずっと農業をやります。

M U F Gのみなさま、このような素敵なチャンスを頂き、本当にありがとうございます。これからもたくさんの研修生に夢を与えてください。どうかよろしくお願いします。本当に1年間お世話になりました。ありがとう

ありがとうございました。